

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.69

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くともの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Chuck Berghofer【チャック・バーグホーファー】



Photo : Chuck Berghofer

Profile

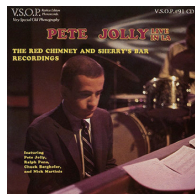
1937年6月14日、米国コロラド州デンパー生まれ。本名は Charles Curtis Berghofer。8歳の時に家族でカリフォルニア州アルカディアに移住。音楽一家で育ち、幼少期から音楽に興味を持つ。8歳でトランペットを演奏。小学校と高校でチューバを演奏し、18歳でアップライト・ベースに転向した。ジャズ・クラブに入り浸り始めた頃にラルフ・ペーニャに師事。20歳の頃、スキネイ・エニスが率いるオーケストラに参加。60年代に入るとシェリー・マンのバンドに参加。また、シェリー・マンが経営するナイト・クラブ「シェリーズ・マン・ホール」のハウス・ベーシストとなり、第一線で活躍するアーティストと共演。67年にフランク・ザッパが初ソロ・アルバムのために編成したハリウッドのセッション・グループ「アブヌセアルズ・エミュウカ・エレクトリック・シンフォニー・オーケストラ」に参加。後に400作品以上もの映画音楽に携わることになるが、ハウス・バンドのベーシストとしてもかなりの功績を残す。ロサンゼルス「ドンテス」で、ピアニストのフランク・ストラツツェリとドラマーのニック・チェロリと定期的なハウス・バンドを結成。映画音楽以外にも、テレビ音楽にも数多く携わり、ポピュラー・ミュージックでも多くの名盤のレコーディングに参加。2022年6月14日で84歳を迎える現在も健在。

リロイ・ヴィネガーにも強い影響を受けた多才なベースマン

本誌由来のベースマン＝リロイ・ヴィネガーやポール・チェンバース、レイ・ブラウンの影響を強く受けていたことを感じていたと語っているチャック・バーグホーファー。スコット・ラファロのベースを賞賛し、最高のソリストはレッド・ミッチェルで、レッド・ミッチェルのソロを聴くのが大好きだったと語っている。映画音楽は「ロッキー2」、クリント・イーストウッド監督の「バード」、「マジェスティック」、「シング」、テレビ音楽では「バーニー・ミラー」、「チャーリーズ・エンジェル」、「ザ・シン普森ズ」、「スター・トレック」等を手掛けた。ジャズ・シーン以外でも、60年代にエルヴィス・プレスリーやエヴァリー・ブラザーズのレコーディングに参加した他、ダイアナ・ロス、ロッド・スチュワート等のアルバム、ポール・マッカートニーのアルバム「キス・オン・ザ・ポトム」のレコーディングにも参加している。ジャズだけでなく、様々なジャンルでいぶし銀のベースワークを披露している多才なベースマンだが、もっと広くその存在を知られるべきベースマンのひとりだ。

CB's Great Albums

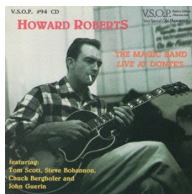
自身のリーダー・アルバムは残されていないが、ジャズ以外にも映画音楽やテレビ音楽、ポピュラー・ミュージックの大御所アーティストたちの作品でも名演を残している。



ライヴ・イン・L.A ビート・ジョリー

(ウルトラ・ヴァイヴ/SOLID Records : NPCC-3102)

1960-65年にビート・ジョリー (p) がチャックとラルフ・ペーニャ (b)、ニック・マーティニス (ds) とのトリオで録音したライヴ音源を収録した作品。



ザ・マジック・バンド・ライヴ・アット・ドンテス Vol.1 ハワード・ロバーツ

(ウルトラ・ヴァイヴ/SOLID Records : CDSOL-45128)

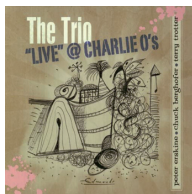
ハワード・ロバーツ (g) が1968年にロサンゼルス市のクラブ「ドンテ」で、チャックやトム・スコット (sax) 等を行ったセッションを収めたライヴ作品。



ワンダフル・ライヴ アイリーン・クラール

(ウルトラ・ヴァイヴ/SOLID Records : CDSOL-45235)

女性シンガー、アイリーン・クラールが1965年にチャックの他、ラス・フリーマン (p)、アル・デ・ロイ (p) 等をバックに従えて録音したアルバム。



ライヴ・アット・チャーリー・オーズ ザ・トリオ

(Fuzzy Music : FZY-16 [Import CD])

2009年にジャズ・クラブ「チャーリー・オーズ」でチャックとテリー・トロッター (p)、ピーター・アースキン (ds) とのトリオで録音したライヴ・アルバム。